

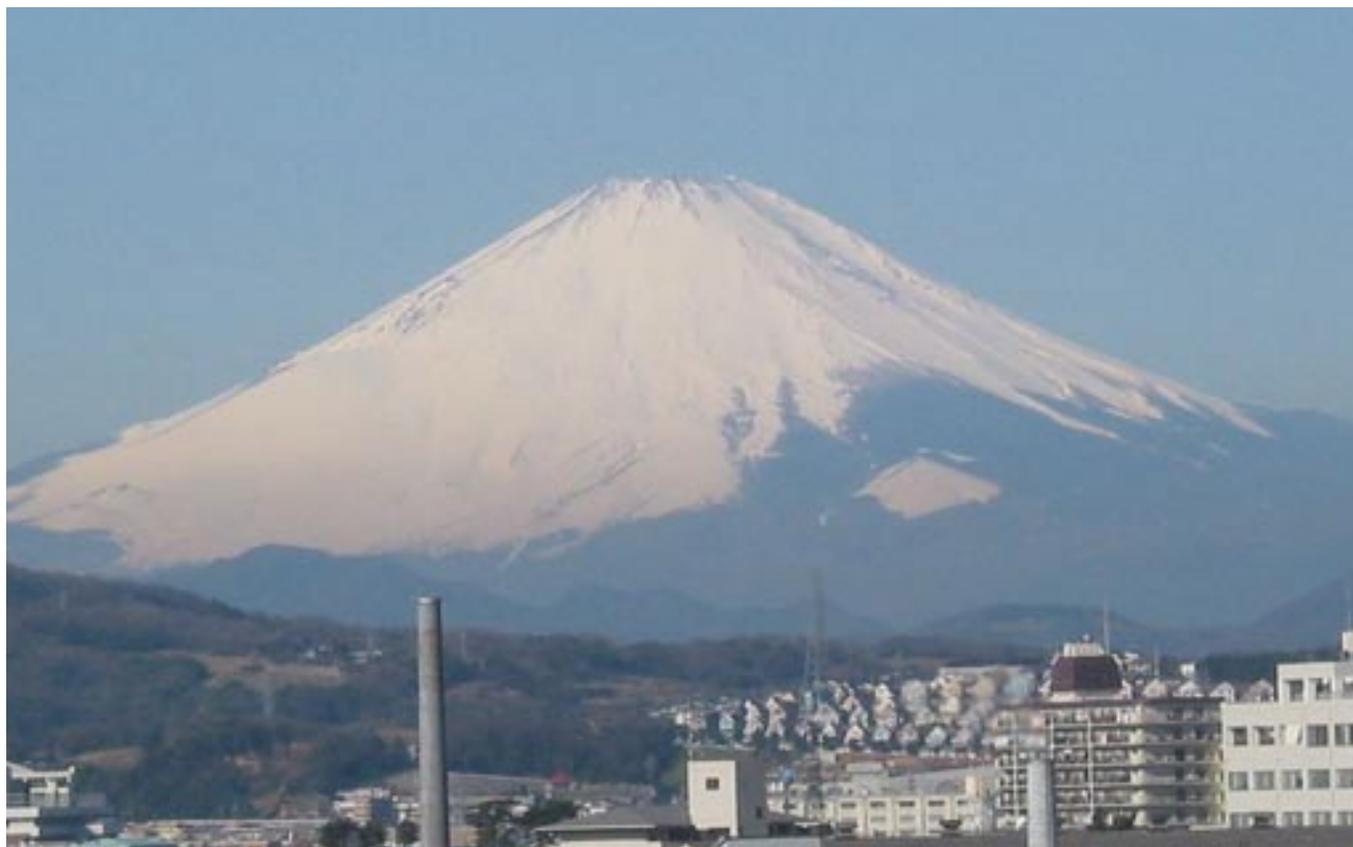


あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2004. 1月号

謹・賀・新・年



平塚市博物館の屋上からみた富士山

新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

ここ数年の社会状況の変化は、博物館運営にとっても様々な問題を抱えざるを得ない状況を生み出しています。そうした問題の具体的な例には、博物館と学校との連携を今後いかに進めていくべきか。市民が利用しやすい博物館として開館日数・時間の拡大等を視野に入れた検討を今後いかに重ねていくべきか。博物館活動の在り方を根本から考え直す必要はないかなど、問題は山積していると考えます。

問題の解決には、できるだけ多くの市民の方々の考え方を聴くということから始めたいと思っております。是非、建設的なご意見を博物館へお寄せください。

昭和51年に開館した平塚市博物館は、本年度で開館28年目をむかえます。

今後とも、一段の飛躍が期待できる一年にしていきたいと思っております。

平塚市博物館

館長 土井 浩

冬期特別展「食の民具たち」開幕！

私たちの両親や祖父母の時代には、どんな台所道具を使っていたのか、どんな器に盛っていたのか、臼から盃までの”食の民具”を通し、むかしの暮らしを振り返ります。

展示構成は、Ⅰ臼と杵 Ⅱお勝手の道具 Ⅲ鍋と釜 Ⅳ食卓の周り Ⅴお膳とお椀 Ⅵやきものの器 Ⅶ贈答の容器 Ⅷ酒と神仏の器 Ⅸ桶と甕 で、畳みの間で休憩できる「昭和のお茶の間コーナー」も設けます。小学校の生活科「むかしの道具調べ」にもお役立てください。2月29日(日)まで。



祝言用汁碗

=特別展関連行事のお知らせ=



貧乏徳利

☆記念講演会「食の道具のはなし」

あの小泉和子先生を当館にお招きします。小泉さんは、家具の研究者としても著名ですが、私どもにとってとくに身近に感じるのは、大田区久が原に「昭和のくらしの博物館」という、小さな、とても素敵な博物館を開かれていることです。この博物館は小泉さんのご実家をそっくりそのまま博物館にしたもので、一步館内に入れば、まさに昭和30年代の世界です。今にも住人が顔を出してきそうなりアルさです。季節ごとに展示資料を入れ替えるなどのきめの細かさが随所に感じられます。さて、その小泉先生のお話は、食文化史や生活史などの深い学識に基づくとともに、ご自分の体験談やサザエさんの話も交えられ、楽しく、ためになり、ときにホロッとする話が聞けることでしょう。2/1の講演会、聞かなきゃ損です。

日時：2月1日(日) 14:00～16:00 講師：小泉和子さん(昭和のくらし博物館館長)

会場：博物館講堂 参加自由

☆体験学習「ソバアゲザルを作ろう」

ザルソバを盛り付ける昔ながらの四角いソバアゲザルを竹ヒゴを編んで作ります。

日時：2月7日(土) 10:00～15:00 講師：上原一さん 会場：博物館講堂

定員：15名(多数の場合は抽選) 参加費：200円

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、1月26日までに博物館「ソバアゲザルを作ろう」係宛申し込む。



重ねもの

☆体験学習「民具でむかしの食体験」

民具の使い方を体験する行事です。第1回で使われる食の民具は、ヘツツイ、火吹き竹、ザル、釜、鉄鍋、鯉節削り、釜敷き、火鉢、鉄瓶、高足膳とお椀などです。第2回は、石臼、粉ブレイ、木鉢、ヘツツイ、釜、ハヤブカシ、鉄鍋などです。なお、

申込多数の場合、どちらか1回のみ参加とさせていただきますので、はがきに希望する回をお書き添えください。



椀

第1回「釜で炊いた御飯を食べよう」 1月24日(土) 10:00～14:00

第2回「石臼挽きの粉で団子を食べよう」 2月21日(土) 10:00～14:00

場所：博物館屋外展示場付近(雨天実施) 協力：民具に親しむ会

定員：各20名(多数の場合は抽選) 参加費：各100円

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望する回を記入し、第1回は1月17日まで、第2回は2月10日までに博物館「民具でむかしの食体験」係宛申し込む。

■体験学習はいずれも定員が少数です。当日の予定が未確定な方の申込はご遠慮ください。

1月の寄贈品コーナー

「足柄と郡内の道祖神祭写真展」

1月8日（木）～2月15日（日）

新年を迎えると、間もなく小正月がやってきます。県内では何といても道祖神祭、セエトバライが小正月行事の代表格。大磯左義長の炎を見上げるのを新春の恒例にしている人も少なくないことでしょう。

そこで、博物館でも道祖神祭の特集展示をします。紹介する地域は足柄と郡内。郡内というのは、山梨県の北都留郡・南都留郡を指します。相模と甲斐で國は違えど境を接する両地域の道祖神祭はどんな特色があり、どんな違いが見られるのでしょうか。

足柄上郡は、天を突かんとそびえ立つオンベが最大の見所。郡内は、山中湖村、忍野村、富士吉田市、河口湖町といった南都留郡の行事を紹介します。南都留郡は、当館フィールド相模川流域の源流域でもあります。行事内容は相模とはまったく違います。以下にその特色をまとめてみました。

①お神木を立てること

足柄のオンベに相当しますが、こちらは杉か落葉松の大きな丸太を柱に立てます。山中湖村平野や河口湖町大石の巨大なお神木は目を見張るばかり。

②お神木を燃やさない

これこそ最大の特徴。お神木は1月13日か14日に立て、燃さずに17日か18日の朝に倒します。倒したお神木は、新築予定の家や、昨年男の子の生まれた家



忍野村内野のお神木

などに縁起物として授けられ、昔は家の柱や鯉幟の竿に用いました。

③ヤナギ、ヒイチ、ホウコ

お神木に取り付ける主な飾りに、ヤナギ、ヒイチ、ホウコがあります。ヤナギは割り竹に色紙のオシメを飾り付けたもの。ヒイチは、三角形の座布団様で、主に厄年の人

が奉納します。ホウコはサルッコとも言うぬいぐるみで、主に昨年子供が生まれた家で奉納します。これらの奉納物は、お神木倒しの後、各家々へ売られます。ヤナギとヒイチは玄関に飾ると魔除けになり、ホウコは子供のいない夫婦が毎日かわいがってあげると、子供が授かるといわれます。



南足柄市雨坪のオンベ

④毎晩どんどん焼きをすること

14日にお飾りなどを燃やすのは相模と同じですが、この火を三日間、毎晩燃やし続けるのが特徴です。近所の人もこの期間に三々五々、お札などを納めに来ます。

⑤厄年との関係

道祖神祭と厄年との関係が深いのも特徴です。厄年の人は、ヒイチの他にも、ザルやカゴ、手ぬぐいなどを奉納することがあります。また河口湖町大石では、十四日祭礼といって、ドンドヤキが点火すると、42歳と25歳の人の子供集団を引き連れて、「ご祝い申そう」とどなり歩き、地域の商店や厄年の家に寄って酒をもらい集めます。道々一升瓶を仰ぎながら歩くので、夜が更ける頃にはもうへべれけで、たいへんな騒ぎです。

以上のように、相模と甲斐の道祖神祭はこんなに違います。厄払い、厄落としが目的なのは共通していますが、相模は火祭りとともにクライマックスを迎えるのに対し、甲斐ではドンドヤキよりもお神木が大きな意味を持つことに大きな違いがあります。南都留郡の行事を観ていると、お神木立てとともにカミが降臨し、小正月の期間お神木に宿り、お神木倒しとともに、カミは縁起物となって地域住民に宿るとも考えられます。何のカミ様なのかは、ここでは内緒です。

博物館カレンダー

2004年1月の行事

1	4	日	☆	冬期特別展「食の民具たち」(~2月29日)	特展室
1	7	水		平塚社寺調査会	市内
1	8	木	☆	寄贈品コーナー「足柄と郡内の道祖神祭写真展」(~2月15日)	展示室
				石仏を調べる会	特研室
1	10	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
1	11	日		民俗探訪会「足柄のオンベ」	開成町
				古代遺跡を探す会	館内
				地質調査会	科学室
1	14	水		プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ
1	15	木		展示解説ボランティアの会	特研室
1	16	金		古文書講読会	講堂
1	17	土		相模川の生い立ちを探る会	秦野市
				天体観察会	屋上
1	18	日	◎	ろばた話の会	展示室
				水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
1	21	水		裏打ちの会	科学室
				プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ
1	22	木		石仏を調べる会	特研室
1	23	金		古文書講読会	講堂
1	24	土	○	民具でむかしの食体験	野外
				空襲と戦災を記録する会	特研室
				天体観察会	屋上
1	25	日		地質調査会	清川村
1	29	木		展示解説ボランティアの会	特研室
				植物誌調査会	講堂
1	30	金		古文書講読会	講堂
1	31	土		天体観察会	屋上

☆: 展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

<展示とプラネタリウム>

☆冬期特別展「食の民具たち」

昔懐かしい鍋や釜、お膳やお椀など食生活に関する民具を展示し、郷土の食文化を探ります。

会期: 1月4日(日)~2月29日(日)

時間: 9時~17時(ただし金曜日は19時まで閉館)

会場: 平塚市博物館特別展示室

☆寄贈品コーナー「足柄と郡内の道祖神祭写真展」

会期: 1月8日(水)~2月15日(日)

☆プラネタリウム「2004年の天文現象」

2004年に起こる天文現象のうち、平塚で見られるものを紹介します。

期間: 12月6日(土)~2月8日(日)まで

投影日: 土日曜日と1月7日の11時と14時

<参加者募集>

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時: 1月10日(土)9時30分~11時

場所: 平塚虹ヶ浜海岸

参加: 自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

◎ろばた話の会

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時: 1月18日(日)(1)13時20分~(2)15時~

場所: 展示室民家

参加: 自由

◇特別展関連行事

◎特別展記念講演会「食の道具のはなし」

日時: 2月1日(日)14時~16時

2004年2月の行事

2	1	日	◎	特別展記念講演会「食の道具のはなし」	講堂
2	4	水		平塚社寺調査会	特研室・市内
				プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ
2	5	木		展示解説ボランティアの会	特研室
2	6	金		古文書講読会	講堂
2	7	土	○	ソバアゲザルを作ろう	科学室
				天体観察会	平塚海岸
2	12	木		湘南コケの会	講堂・野外
				石仏を調べる会	特研室・市内
2	13	金		古文書講読会	講堂
2	14	土	☆	プラネタリウム「彗星がやってくる」(~4月4日)	プラネ
			◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
				地質調査会	特研室
2	15	日	◎	ろばた話の会	展示室
				水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
				民俗探訪会「博物館まつり準備」	講堂
2	18	水	☆	寄贈品コーナー「天文分野」(~3月30日)	展示室
				裏打ちの会	科学室
				プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	プラネ
2	19	木		展示解説ボランティアの会	特研室
2	20	金		古文書講読会	講堂
2	21	土	○	民具でむかしの食体験	野外
				自然の新聞を作る会	野外
2	22	日		古代遺跡を探す会	野外
				地質調査会	科学室
2	26	木		石仏を調べる会	特研室・市内
				植物誌調査会	野外
2	27	金		古文書講読会	講堂
			◎	星を見る会	屋上
2	28	土		空襲と戦災を記録する会	特研室
				相模川の生い立ちを探る会	科学室

会場: 平塚市博物館講堂

講師: 昭和のくらし博物館館長 小泉和子氏

参加: 自由

○体験学習「ソバアゲザルを作ろう」

内容: 手作りの竹ざるに、おそばを盛りつけてみませんか。

日時: 2月7日(土)10時~15時

会場: 平塚市博物館講堂

講師: 上原一氏

参加: 往復はがきで1月26日までに申し込む

材料費: 200円

定員: 15名(多数の場合は抽選)

○体験学習「民具でむかしの食体験」

実際に古民具を使って平塚の郷土料理を作り、試食をします。

・第1回「釜で炊いた御飯を食べよう」

日時: 1月24日(土)10:00~15:00

申込: 往復はがきで1月17日までに申し込む

・第2回「石臼挽きの粉で団子を食べよう」

日時: 2月21日(土)10:00~15:00

申込: 往復はがきで2月10日までに申し込む

場所: 博物館屋外展示場付近(雨天実施)

参加: 各回ごとに往復はがきで申し込む

食材費: 各100円

定員: 各20名(多数の場合は抽選)

あなたと博物館 29巻 10号 通算325号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>